第11号様式（第12条関係）

事業活動実績報告書

施 設 名	東江幼稚園
教育理念	「人と関わる力」「しなやかに動かせるからだ」「自然から学ぶ体験」を育てる

事業の区分（5領域）	健康 ・ 人間関係 ・ (環境) ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	春から冬までの田んぼ活動～①育てる②味わう③利用する
2 実施期間	令和 6 年 4 月 1 日 ～ 令和 7 年 3 月 27 日

3 取組概要

（取組日） 令和6年4月8日 ～ 令和6年4月20日

（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

前年度3/27日に園庭で種まきを行った。新年度より子供達と水やりなど行いながら、発芽・成長を見守った。4/19には、充分育った苗を子供達と共に車に運んだ。
4/20に田んぼカフェで有志親子と園長らが田植えの支度を行う。職員も、4/17に田んぼの下見を行い、5月の田植えに向け準備を始めた。

（取組日） 令和6年5月9日 ～ 令和6年5月11日

（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

流山市にある田んぼにて、全園児とその保護者と共に職員も総出で田植えを行った。
5/6 有志家族と全職員 5/9やま・さくら組 5/10そら・いなほ組 裸足で田んぼに入り、泥の感触も味わいながら、「美味しいお米になりますように」と掛け声を合わせ、丁寧に手作業で進めた。
田植え体験と共に、畦遊びや泥んこ遊びも楽しみ、田んぼ周辺の植物や虫などにも親しんだ。

（取組日） 令和6年5月25日 ～ 令和6年9月4日

（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

有志の家族で田んぼ除草作業を行った。(5/25・6/1・6/9・7/6) 田んぼ内ではオタマジャクシ・ヤゴ・蓮の葉など、畦ではテントウムシ・シロツメクサ、スズメやツバメなど周辺の生き物と戯れたり、観察したりと、園庭とは違った自然に親しむ事もできた。職員も交代で除草を行いながら稲の生長を楽しみに過ごした。

（取組日） 令和6年9月4日 ～ 令和6年9月9日

（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

稲刈り活動、のこぎり鎌を「カリカリ・ザクザク」と使って 親子で収穫体験を行った。9/4さくら・やま組9/5いなほ・そら組 9/7有志家族と全職員。太くしっかり伸びた稲を自分たちで刈っては運び、みるみる稲束が畦に積み上がる。ありがたさや大変さをしみじみ実感できた。稲を刈るにつれ、追い込まれたイナゴもハンティング。
9/9にお料理サークルの保護者がイナゴを子供の前で調理してくれ、お弁当時に美味しく頂いた。

３ 取組概要

（取組日） 令和6年9月7日　～　令和　6年　9月　19日

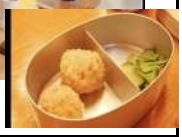
（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

9/7から園庭に束ねた稲を干し、9/17～順次脱穀する。園庭では農機具で脱穀する様子を子供が見られるようにした。興味がある子供は、手伝うこともできる。
子供達は割り箸で穂先をしごいて手で脱穀体験も行った。籾摺りは野球ボールとすり鉢で行う。昔の人は機械も無くて、ご飯を食べるために随分沢山の大変な作業をしていたのだとわかる。

（取組日） 令和6年9月20日　～　令和6年9月26日

（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

9/20に係の保護者が秋のおにぎり会準備集まりを行う。今年の東江幼稚園新米を、お母さん達が朝から幼稚園の園庭に釜を出して炊きだしてくれ、収穫を祝って全園児でおにぎりを頂く。礼拝して感謝をささげ、みんなで玄米おにぎりをよく噛みしっかり味わった。玄米をよく噛みしめて食べることで、米の甘みを確かめる事もできた。種まきから食べるまでに、沢山の作業と時間が必要である事も実感する。



（取組日） 令和6年9月30日　～

（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

収穫祭が終わり、後はクラスで年度末まで機会を作って薪釜で米を炊く、味わう活動を行う。時におにぎり作り、時にカレーライス作りと、何回も活動を重ねる。

（取組日） 令和6年11月30日

（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

今年収穫したお米で全園児餅つきを行う。朝から園庭に大きなせいろを据え、蒸した米がご飯になり、ついて餅になる様子を見て、実際に餅つき体験もする。ついた餅は担任が鏡餅にする様子を子供が見守り、飾り餅として各教室にしつらえる。父母のボランティア参加も多く、保護者も一緒に体験を楽しんだ。

（取組日） 令和　6年12月11日

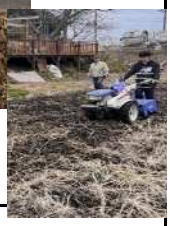
（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

締め飾り作り。
脱穀して残った藁を利用する。保育時間に園庭で保護者や職員が藁を綯う様子を子供達が見学する。興味がある子供は体験もできる。難しいが、進んで挑戦する子供が数人いた。藁が縄になる事がわかり、自家製の縄は、干し柿作りなどにも利用している。担任が作った締め飾りはクラスの正月の支度にも使う。

（取組日） 令和7年　1月　14日

（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること

鏡開き。
自分たちで育て、収穫した米でついた餅で作った飾り餅。年神様の依り代として宿った力を分けて頂き、新年の運を開き、無病息災を願う。冬の寒さの中、温かいお汁粉で餅を味わえる幸いを実感した。

3	取組概要	（取組日） ～ 令和 7年 3月 4日	
		（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 年度初めから行っていた田んぼカフェと田んぼの管理は1年中続く。稲刈り後も田んぼで 藁きり・藁撒き・草刈り・籾殻燻炭づくり・草刈り・落ち葉掃き・畦塗・代掻きなどを、有志の園児家族や職員が行い、また次のシーズンの田植えに向けて田んぼを整える。	 
		（取組日） 令和7年 3月 15日 ～ 3月27日 （そして次の年度へつながる）	
		（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 卒業式が終わると、次のシーズンの為、再び種まきの支度を始める。3/15に種籾が発芽するのに必要な水分を吸収させる為浸種を行う。その後、3/27に種まきを行う。作業は園庭で行い、園庭開放や預かり保育で登園している子供達が間近に作業を見たり、手伝ったりする。	
		（取組日） 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
		（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 （区HPで公開が可能な写真を添付してください） 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
		（取組日） 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
		（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 （区HPで公開が可能な写真を添付してください） 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
		（取組日） 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
		（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 （区HPで公開が可能な写真を添付してください） 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
		（取組日） 令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日	
		（実施内容） 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 （区HPで公開が可能な写真を添付してください） 活動内容が分かるもの 取組に関するもの

第13号様式（第12条関係）

効果検証報告書

施　設　名	東江幼稚園
教 育 理 念	「人と関わる力」「しなやかに動かせるからだ」「自然から学ぶ体験」を育てる

事業の区分（5領域）		健康　・　人間関係　・　環境　・　言葉　・　表現
1 事業名		春から冬までの田んぼ活動～①育てる②味わう③利用する
2 事業概要		年間を通しての稲作活動。①「育てる」種まき、苗育て、草取り、田植えから稲刈りをして、脱穀等の育てる活動②「味わう」収穫した米を食べる活動（おにぎり、餅、米菓子）③「利用する」収穫後の藁を使った渋柿干し、しめ縄作り等を通して日本文化を体験する。
計画時	3 実施体制	取組に必要な環境（人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等）の保有状況 流山市にある300坪の田んぼを借りている。 理事長･園長および事務兼用務員に農業体験があり指導できる。
事業後	3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 農業体験があって・指導できる職員が複数おり、他の職員も在職年分の経験を積んでいる為、実際の作業も園職員中心で行った。また、農業経験のある卒園児保護者が定期的にかかわり、様々な農作業で支えてくれた。ねらいを踏まえた全ての園職員主導でできる田んぼ活動であり、教育的観点（田んぼの泥んこ遊び・自由な畦遊び・園児が植えやすい稲の間隔の確保・効率や収穫量より園児の安全と体験重視の作業、等）優先で、田んぼを広々使い、行える環境であった。
計画時	4 事業のねらい	日本人の主食であるお米の栽培を通して、自然の営みに関心を持つ。 土や植物に触れて自然の循環や生態系、様々な昆虫などについても知ることができて学びにつながる。また、しめ飾りや餅つきなどお米や藁を使った日本文化に関わり関心を持つようになる。
事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 田んぼや畦で活動する中で、田んぼを巡る動植物に触れ、例えばイナゴは米を食べ、人はイナゴを捕って食べるなどの体験もし、自然の循環や生態系についての気づきや学びにも繋がった。 園児だけでなく、保護者にも参加して貰うことで、親子で稲作や農作業について関心を深める機会になった。
	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取り組み内容、経験させたい内容等 流山市にある300坪強の田んぼを借りていて、稲作を行える環境がある。完全無農薬･無化学肥料で稲作を行うことで、稲の栽培だけで無く、様々な生き物に出会える。また種籾から収穫までの過程を知る。収穫後のお米を食べる。餅をつく。餅を食べる。締め飾りを作る。 3月：園庭で種まき。田んぼの代掻き　4月：園庭で育苗　5月：田植え　6～8月：草取り　9月：稲刈り　10月：脱穀・収穫祭　11月：米粉の菓子作り　12月：締め飾り作り・餅つき　1月：鏡開き　（希望者を募って5～8月の田んぼ草刈り・10～2月の田んぼの田起し等農作業） 稲作について園児が全員で関わるのは種まき、育苗、田植え、稲刈りである。特に田植え・稲刈りは大型バスを出して、田んぼに実際に行く。それ以外の期間は田んぼに設置したライブカメラで稲の成長を幼稚園から観察する。
事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 播種に始まり、田植え・草刈り・稲刈りはもちろん、脱穀･籾すり体験を経て、米を口にするまでの流れを実際に体験できた。特に、親子で田植え・稲刈りをする事で、家族で稲作への関心が深まり、学びを深める機会になっている。 また、「田んぼカフェ」という名称で、有志家族が草取り・耕運作業などの年間を通じた田んぼ作業を行う機会や、子供達が畦で遊ぶ機会を設ける事で、より深い体験を積むこともできた。

計画時	6 環境構成	幼稚園で種まき、育苗を行う。 流山市の田んぼで田植え、稲刈りをはじめてとする稲作活動をする。同時に昆虫採集をすることができる。 園からもライブカメラで稲の様子を確認できる。 収穫後はお米を使った食育活動を園で行う（餅つき・鏡餅作り・しめ縄作り）
事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ライブカメラで、田んぼの稲の経過を確認するだけで無く、幼稚園各クラスでは「バケツ田んぼ」の世話も行い、身近で稲の成長に触れることもできた。年間を通じ、田んぼと米に関わる活動が園内にあり、常に関心を向ける環境であった。今年度は新しい羽釜や竈の数を増やし、例年以上に盛んに米炊きの体験を重ねられた。

	7 期待される効果 児童の姿	取組みを通じて期待される児童の姿や効果等 米作り体験は、普段から私達の食卓に欠かせない「米」について深く理解する貴重な機会です。この体験を通じて、種まきから育つまでのプロセスを学ぶことで、自然の循環や農業の重要性についての洞察が得られます。さらに、日本の食文化や食の大切さについても深く学ぶことができます。 昨年の成功を受けて今年も米作り体験を強化して行います。自らがコメ作りのプロセスに参加し、稲作の喜びや農耕作業の大変さを体験することで、食に対する新たな感謝の気持ちを抱くことができます。（プロセスに参加とは田んぼだけでなく、各クラス保育室でも、種籾から稚苗を育て、教室前でバケツ1つ分稲を育てる。 身近にも見ることでより親しみを感じる。また、収穫後の作業「脱穀」「籾すり」を手作業で子供達と行う事で より 稲穂から米になる過程を知ることになる。） また、この体験は日本文化に触れる良い機会でもあります。日本の伝統的な農耕文化や食の大切さについて深く理解することができる。
事業後	7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 米の不足や米価の値上がりが社会問題として話題になった際にも、稲作体験をしている子供達なりの関心、理解の姿が見受けられた。食の恵み、感謝、それらを支えていく事の重要性など、体験から生まれる見識も広がった。

	8 効果検証 総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 一度限りの活動や行事に留めず、毎年、通年を通して常に田んぼにまつわる活動が園生活の中で連続性を持って繰り広げられる事で、体験が血肉になる。特に経験を重ねた年長児は、田んぼ活動への意欲も高い。卒業生たちも、同窓共通の体験や思い出として田んぼ活動を共に振り返る事ができ、それは保護者とも共有できる。関係者が、年々田んぼの活動を続けていくことで、共に生きることを考えようとする繋がりも生まれている。 外注ではなく、教育的ねらいをわきまえた職員集団が管理運営することで、米を育て味わい、利用する事を存分に実行することができた。